

of Wamba — with a special reference to the possible lack of intraspecific killing. In : Animal Societies : Theories and Facts, Y. Ito, J. L. Brown and J. Kikawa (eds.). Japan Scientific Societies press. pp.159—172.

- 4) Oi, T. (1988) : Sociological study of troop fission of Japanese monkeys in Yakushima island. Primates 29(1): 1—19.

報告・その他

- 1) 森 梅代 (1987) : サルのフィールドから。
1) 母性と父性, 栄養と料理 53(7):116-119.
- 2) 森 梅代 (1987) : サルのフィールドから。
2) サル道に踏み込む, 栄養と料理 53(8):116-119.
- 3) 森 梅代 (1987) : サルのフィールドから。
3) 雌と雄と, 栄養と料理 53(9):116-119.
- 4) 森 梅代 (1987) : サルのフィールドから。
4) エチオピア調査記 I, 栄養と料理 53(10):116-119.
- 5) 森 梅代 (1987) : サルのフィールドから。
5) エチオピア調査記 II, 栄養と料理 53(11):78-81.
- 6) 森 梅代 (1987) : サルのフィールドから。
6) エチオピア調査記 III, 栄養と料理 53(12):76-79.
- 7) 大沢秀行・杉山幸丸 (1987) : ニホンザルの群れ分裂と社会的順位・ニホンザルにおける採食戦略の社会学。科研費研究成果報告書。
- 8) Sugiyama, Y., Ohsawa, H. (1988) : Population dynamics and management of baited Japanese monkeys at Takasakiyama. Sociology on feeding strategy of Japanese monkeys. Reports for Grant-in-aid for scientific research : 1—8.
- 9) 鈴木 晃 (1987) : クタイ国立公園の野生オランウータンの社会生活。モンキー 213, 214:6-13.

(*Pan paniscus*) とアカコロブス (*Colobus badius*) の相互交渉, 第41回日本人類学会・日本民族学会連合大会, 研究発表抄録: 56.

- 2) 大井 徹 (1987) : 西スマトラにおけるブタオザル (*Macaca nemestrina*) の社会学的研究。第3回日本霊長類学会, 霊長類研究 3:153.
- 3) 大沢秀行 (1987) : パタスモンキーの社会変動と雌雄関係。第3回日本霊長類学会大会, 霊長類研究 3:155.
- 4) 大沢秀行 (1987) : 霊長類の重層社会の構造。第41回日本人類学会・日本民族学会連合大会シンポジウム, 家族の起源—プライマトロジカルアプローチの現状—, 研究発表抄録: 27.
- 5) 鈴木 晃 (1987) : 東カリマントン・クタイ国立公園における大山火事以後のオランウータンの採食行動の変化。第3回日本霊長類学会, 霊長類研究 3:158.

変異研究部門

野澤 謙・庄武孝義・和田一雄・峰澤 満¹⁾

研究概要

- 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究

野澤 謙・庄武孝義・早坂謙二²⁾

ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内, 群間の変異性を定量化する。現在までにニホンザル44群, 総個体数約2,600頭の血液試料について, 35種の蛋白の構造を支配する計38遺伝子座の検索を行ってきた。また, 新たにミトコンドリアDNAの多型を標識として加えた。これらデータをもとにして, 統計的検索を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業を続行中である。62年度は下北の群の変異性を定量し, 他群と比較した結果を公表した。

- 2) *Macaca* 属サルの系統的相互関係

野澤 謙・庄武孝義・早坂謙二

ニホンザルを含む *Macaca* 属サル各種から材料を採集し, 前項1) と同一の方法によって種内・種

学会発表

- 1) 五百部裕 (1987) : ピグミーチンパンジー

- 1) 1987年10月1日付で農林水産省へ転出。

- 2) 大学院学生

間の遺伝学的変異性を定量化し、それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し、それに数量分類学的手法を適用して枝分かれ図を描く。それにより種間の近縁関係、分化時間の推定等を行う作業を目下続行中である。62年度は *sinica* species group の遺伝的分化を定量化し公表した。

3) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野澤 謙・庄武孝義

在来家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって、家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と、個々の家畜内で地域集団間の遺伝的分化の程度、系統的相互関係の解明を行いつつある。61年度にネパールにおいて海外調査を行いその資料を用いヤクとウシの種間変異を定量化し公表した。

4) ヒヒ類の種分化に関する遺伝学的研究

庄武孝義・野澤 謙

アヌビスヒヒ、マントヒヒ、ゲラダヒヒ、ドリル、マンドリルの種間関係を遺伝距離で定量化し、ドリル、マンドリルの分類学的定量化が従来のものと大きく異なることを提示した。

5) 新世界ザルの遺伝学的研究

峰澤 満

61年度、ポリビアおよびブラジルにおいて血液試料を入手した。これらの試料にもとづいて核型およびその変異の検索を行っている。電気泳動法による血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異の検索を合わせて行い、新世界ザルの系統相互関係の解明を試みている。

6) キヌザル科のキメラの遺伝学的研究

峰澤 満

キヌザルにみられる血液および生殖細胞のキメラの遺伝学的解明を行いつつある。

7) 中国黄山でのチベットモンキー調査

和田一雄

1987年10月から、安徽省においてチベットモンキー (*Macaca thibetana*) の分布調査、黄山の群れの泊まり場、遊動時の社会調査を行っており、現在も続行中である。

総 説

- 1) 野澤 謙 (1987) : 家畜化の意義と原因. 哺乳類科学 27:28-36.

論 文

- 1) Hayasaka, K., Kawamoto, Y., Shotake, T.

and Nozawa, K. (1987) : Population genetical study of Japanese macaques, *Macaca fuscata*, in the Shimokita A1 troop, with special reference to genetic variability and relationships to Japanese macaques in other troops. *Primates* 28 : 507-516.

- 2) 和田和雄 (1986) : ヤク総合研究の勧め. テーテス・リサーチ 4:23-32.

報告・その他

- 1) 野澤 謙・庄武孝義 (1988) : ニホンカモシカの遺伝的分化. “カモシカの生態と保護に関する基礎的研究” 昭和62年度科学研究費補助金特定研究(1) 研究成果報告書 : 45-50.
- 2) 野澤 謙 (1988) : 家畜遺伝資源保存の集団遺伝学的研究. 特に在来家畜保存集団の近交度を低く保つための交配系について. “家畜遺伝資源, 特に国内在来家畜の保存と評価に関する研究” 昭和60-62年度科学研究費補助金 総合研究(A) 研究成果報告書 : 1-11.
- 3) 庄武孝義 (1988) : 血液蛋白変異からみたヒヒ類の種分化. “霊長類の進化と人類の起源に関する研究の推進” 昭和62年度科学研究費補助金 総合研究(B)によるシンポジウム報告集 : 41-48.

学会発表

- 1) 川本 芳・野澤 謙・松林清明・後藤俊二 (1987) : アンガウル島カニクイザル調査報告. II. 遺伝的分化. 第3回日本霊長類学会 (大阪).
- 2) 庄武孝義 (1987) : *Macaca* 属 *sinica* species group の遺伝的分化と分化について. 第3回日本霊長類学会 (大阪).
- 3) 庄武孝義・野澤 謙 (1987) : 遺伝学的にみたヒヒ類の種分化. 第41回人類学会 (京都).
- 4) 松林清明・後藤俊二・鈴木樹理・野澤 謙 (1987) : アンガウル島カニクイザル調査報告. I. 現況・形態. 第3回日本霊長類学会 (大阪).
- 5) 後藤俊二・松林清明・野澤 謙 (1987) : アンガウル島カニクイザル調査報告. II. 臨床検査成績. 第3回日本霊長類学会 (大阪).

- 6) 庄武孝義・野澤 謙・川本 芳・足立 明・林 良博・西田隆雄(1988)：ネパールの在来家畜に関する研究。ネパール在来山羊の遺伝的変異性。第80回日本畜産学会(東京)。
- 7) 庄武孝義・野澤 謙・川本 芳・足立 明・林 良博・西田隆雄(1988)：ネパールの在来家畜に関する研究。アジアゾウ種内の遺伝的分化。第80回日本畜産学会(東京)。
- 8) 庄武孝義(1988)：シェルバ族飼養のヤク、ウシ、それらの雑種の遺伝的変異性。在来家畜研究会(東京)。
- 9) 峰澤 満・八木欣平(1987)：ポリビア産ティティ(*Callicebus*)とホエザル(*Alouatta*)の核型について。第3回日本霊長類学会(大阪)。

生活史研究部門

杉山幸丸・森 明雄・宮藤浩子¹⁾

研究概要

- 1) 西アフリカの熱帯多雨林および乾燥サバンナに生息する狭鼻猿の比較生態学

杉山幸丸・森 明雄・大沢秀行²⁾・三谷雅純³⁾
中川尚史³⁾・室山泰之³⁾

カメルーン国南部の熱帯多雨林・カンボ動物保護区に同所的に生息し混群形成もするチンパンジー、マンドリルおよび樹上性・半樹上性サル類5種について、森林適応の観点から現地調査した。一方、同国北部の乾燥地カラマルエではバタスザルの採食行動からみた環境適応を社会構造との関係において現地調査した。これらを合わせて、各種の社会構造にまでおよぶ行動様式的环境適応を比較考察している。

- 2) 西アフリカ生息チンパンジーの行動生態学
杉山幸丸・松沢哲郎⁴⁾・佐倉 統³⁾・アリスマ=ガスパール³⁾

ギニア国ボッソウに生息する野生個体群を個体識別の下に11年に及んで追跡し、社会行動と社会構造の変化過程を分析した。一方、ギニア国全域のチンパンジーの分布と生息個体数を明らかにする努力も進めている。また、ボッソウで発見され

た石器使用を含む道具使用行動の技術・伝播・変容を野外実験を含めて追跡・分析し、チンパンジーの分布全域にわたる文化圏形成の理論化を進めている。

- 3) ニホンザルの個体群動態および採食生態学的研究

杉山幸丸・大沢秀行・中川尚史・佐倉 統・アリスマ=ガスパール・芝原総子⁵⁾

大分県高崎山の餌付け個体群を対象に採食量と繁殖成功度を示す人口学的パラメーターが17年にわたって追跡記録され、パラメーター相互に強い関係が明らかになったので順次公表の準備を進めている。また、宮城県金華山では季節変化による食物供給とそれに対する採食方法の変化を、長野県志賀高原ではハナレオスの群れへの接近状況から雌の排卵期をめぐる両性間の繁殖戦略を探った。一方、社会部門と共同で所内放飼場若桜群における全ての性行動の追跡記録をとり、各性・各社会的地位による繁殖戦略と繁殖成功度を明らかにしつつある。

- 4) 動物における種内子殺しの社会生態学

杉山幸丸

ハヌマンランゲールで最初に確認された野生動物(哺乳類)社会における種内子殺しの近因と遠因、その相互関係を、野外調査を交えながら理論的に考察している。

- 5) ニホンザルのメスの順位形成のメカニズムの研究

森 明雄・渡辺邦夫⁶⁾

幸島群におけるメスの順位の変遷を継年的に分析し、順位がどの程度維持・継承されるのかを調べた。また家系順位、姉妹間の順位関係が、川村の順位形成に関する仮説に従っているのかどうかの検討を前年に引き続いておこなった。

- 6) カメルーン国カンボ動物保護区における冥猿の研究

森 明雄

カンボ動物保護区では樹上性霊長類の研究を行っているが、サイド・ワークとして、現地の人々の生計活動の中で重要な役割を占める跳冥猿の調査を行ってきた。特に、獣道やそれを通過する動物に対する現地の人々の認知構造の分析を行っている。

1) 非常勤講師 2) 社会研究部門
3) 大学院生 4) 心理研究部門

5) 研修員
6) ニホンザル野外観察施設